

未来へつなぐ いちはらの教育



市原市教育大綱の基本理念「未来へつなぐ いちはらの教育」の實現に向けて、子どもたち自らに策定した「市原市いじめゼロ宣言」の實踐を全ての大人たちが一丸となって支える機運を醸成し、教育大綱の基本目標の一つである「いじめを許さない体制づくり」を全力で推進まいります。

「未来へつなぐ いちはらの教育」第14号

教育長
前田周一

市原市 いじめ「ゼロ」宣言 子どもたちと一緒に声を上げよう!

学校・保護者・地域、市原市全ての大人で子ども達を「いじめ」から守ろう!

いじめをなくすために
子どもたち自身で宣言した

正義の心

素直な心 3つの心 優しい心

すべては子どもたちのために ～教育委員4名より～



教育長職務代理者
伊藤 均

「未来へつなぐ いちはらの教育」ということの意味は、人口減少時代でも現在より充実した生活を望める教育ということになります。今までの教育が人口増加時代のものでしたが、社会の変化として人口が減少し始めましたので、これからの社会生活は共生を主体とした考え方でないと効率的な社会は築けなくなります。共生とは各自がそれぞれの特徴を最大限発揮することにより共に生きることですので、教育においても各自の特徴が引き出せる教育及び助け合う教育ということになります。市原市及び市原市教育委員会ではいち早く時代に沿った教育施策を実施いたしますので、その過程において従来の考え方に拘らず、保護者の皆様のご協力の程宜しくお願い申し上げます。



教育委員
洞 厚子

子どもが自分の人生を生きるために大人がしてやれることは何でしょうか。欲しがらる物、良い物を何でも与えていて自分の道を選べるようになるのでしょうか。私達の子どもの時代を思い返してみても記憶のどこかにある大人の優しさとは、ちょっとした事で大げんかをして、翌朝いつも通りに朝食を出してくれた母。一緒にトランプをして負けると本気で悔しがらるおちやめな父。登下校中、庭や畑での作業の手を止めて声をかけてくれた近所のおじさん、おばさん達。今日は元気がないねと心配してくれた先生。地域の大人に見守られ安心して過ごした経験は子どもが自分で道を決める時の大きな支えとなっていると思います。大人は与えすぎずでも愛情は惜しまずにありたいものです。



教育委員
船山 慶子

人生の中で平等かつ無償で教育を受けられる義務教育期間は9年間しかありません。でも、学びの場は学校だけではありません。生まれた時から家庭教育は始まっていますし、登下校の途中に出会うすべての人から、子どもたちはたくさんのことを学んでいます。真っ白だった子どもの心は、様々な環境によって様々な色に染まります。地域の皆さまの優しさで、子どもたちの心を素敵な色にしてください。

子どもに優しいまちは、誰にとっても優しいまちになる筈ですから・・・



教育委員
秋田 秀博

〈白砂に黒松林…〉

これは母校、五井小学校の校歌です。昭和33年、3年生の時に制定されました。すばらしい校歌ですが、ここに歌われた景観は残念ながら姿を消しつつありました。京葉工業地帯の造成に伴い、遠浅の海岸は埋め立てが進められていたのです。やがて、大工場が次々に操業を開始します。6年生の時には、わが校に九州から沢山の転入生がありました。平凡な生活を送っていた私は、えたいの知れぬ興奮に襲われました。

平成の現在、これまでを振り返ってみますと、いかに多くの市・県外出身の方々のご縁を頂戴したことでしょう。多様性と柔軟性。地元住民と融合し、市原の風土に新たな歴史が紡がれています。

「未来へつなぐ いちはらの教育」の実現に向けて、微力を尽くしたいと存じます。